



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ リニア中央新幹線工事に伴う大井川の流量減少対策について

リニア中央新幹線整備工事による大井川の流量減少に関して、連日、新聞などで報道されていますが、それでも「内容が専門的過ぎて分かりにくい」「もっと詳しく説明してほしい」といった声をよく耳にします。

そのたびに、大井川の流量減少が、私たちの日常生活だけでなく、この地域の経済発展を支える地下水に影響を与え、今後の経済活動全般に支障をきたす恐れがあることを説明してきました。今回は、この問題についての状況をご報告いたします。

端的に申し上げれば、私たちがJR東海に求めているのは「確実に水を戻してほしい」という、その一点に尽きます。そのために、トンネル湧き水を全量回復させる、確実な対策と万全な水質保全対策について、科学的知見に基づく具体策を求めています。



作業宿舎の工事現場

8月に開催された県中央新幹線環境保全連絡会議の専門部会で、大井川の将来像を問われたJR東海は「上流域では影響(一部沢枯れ)が出る可能性はあるが、中下流域の状況は(現在と)変わらない」と答えました。この言葉を信頼できるものとするためにも、私たちが危惧する、流量の減少・地下水位の低下・河川水温の変化・濁水・重金属を含む発生土の流出・生態系への影響などについて、具体的かつ納得できる対策が明記された協定書を、本工事着手前に締結する必要があると考えています。

また、新たな課題として急浮上したのは、山梨・長野両県から掘り進めている工事において、トンネル湧き水が標高の高い本県側から、山梨・長野県側へと流れ、静岡工区と両県工区のトンネルが繋がる



大井川源流部

までの期間、湧水全量を大井川に戻すのは困難との認識が、JR東海から示されたことです。その湧水量は最大想定で、山梨県側で毎秒0.31トン、長野県側で毎秒0.01トンとしています。これは、県民の平均的な生活用水使用量で換算すると、毎日9万2000人分の水が他県に流れる計算になり、今後、技術的に解決すべき重要な課題と考えています。

ところで、リニア中央新幹線の工事は、既に他県で進められており、静岡県内の工区のみ、工事に着手していない状況となっています。そのため政府は、静岡県とJR東海の課題解決に向け関与する意向を示し、国土交通省の職員が協議に立ち会うようになりました。これにより今後は、早期に、科学的根拠に基づいた解決策が示されることを期待しています。

私は、市民・県民の皆さまに、大井川の水が、流域8市2町の住民の暮らしと企業の経済活動の根幹を支えていることを広く知っていただくとともに、水資源の大切さについて「オール静岡」で関心を寄せていただきたいと、切に願っています。

みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などをご紹介します。

岸町社会福祉協議会の取り組み「岸町応援隊」による生活支援サービスの提供が始まりました。これは、日常生活のちょっとした困りごとを、助け合いで解決し、高齢者などの自立生活をサポートする会員制の有償サービス。利用者は、事前にコーディネーター(利用者とサポーターの調整役)と話をし、受けるサービスを決めます。また、有償にすることで、利用料を運営費などに充てられ、継続的に取り組めるようにしました。

7月29日、サポーター2人が一人暮らしの女性宅で、庭の草取りを代行しました。依頼した女性は「今までは自分で草取りをしていたけれど、そろそろ限界だったのでとても助かった」と話してくれました。



(岸町社会福祉協議会「岸町応援隊」代表 永野幸信)